第 149 回　『わかるように伝えていますか』

坂井　聡

筆者は香川大学で、障害のある学生を支援する「バリアフリー支援室」の室長を務めています。本学でも他の大学と同様に障害のある学生の数が増え、それに伴い相談件数も増加しています。また、学生が卒業後にどのような進路を選ぶかについても、支援が必要です。

そこでここでは、近年大きく変化している日本の教育環境について考え、誰もが学びやすい「インクルーシブな学びの環境」をどのように整備すればよいのかを提案します。

特に注目するのは、以下の 2 つの点です。

1、大学における障害のある学生の在籍者数が毎年大きく増加していること
2、小学校や中学校で不登校の児童・生徒の数が過去に例のないほど増加していること

これらの状況は、日本の教育機関が直面している課題を明らかにしています。
教育は社会の変化に対応する必要がありますが、筆者はその解決策として「合理的配慮」「ニューロダイバーシティ（神経の多様性）」「ライフスキル統合型 SST（ソーシャルスキルトレーニング）」の 3 つの考え方が重要だと考えています。
ここではこれらの考え方をもとに、今後の学びの環境のあり方について提案したいと思います。

大学における障害学生の増加と合理的配慮の必要性

日本の大学に在籍する障害学生の数は、ここ 10 年間で急速に増加しています（図 1 参照）。
この現象は、単に人数が増えたというだけでなく、社会の中で障害への理解が進み、
支援制度が整備されてきたことを反映していると考えられます。

香川大学でも、障害のある学生を支援する取り組みが進んでいます。図 2 と図 3 に示されているように、支援が必要な学生の数や、障害のある学生からの相談件数は年々増加しています。
この背景には、さまざまな要因が関係していると考えられます。

香川大学のバリアフリー支援室では、これまでの対応事例を通じて、
障害のある学生が直面する課題や支援のポイントを明らかにしてきました。
これらの経験をもとに、今後の支援の在り方について具体的な提案をしていこうと思います。

※図 1　令和 6 年度 障害学生数（JASSO より引用）

※図 2　香川大学における支援学生数の推移

※図 3　香川大学における相談件数の推移

～坂井 聡先生のご紹介～
《プロフィール》
香川大学教育学部卒業。金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など、養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部教授。1997 年には自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。自閉症スペクトラム支援士エキスパート、特別支援教育士スーパーバイザー、言語聴覚士。